

姫路港 港湾計画改訂

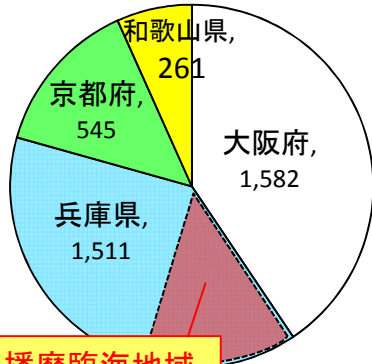
前回改訂:平成 5年(1993年)11月[目標年次:平成17年(2005年)頃]

今回改訂:令和元年(2019年) 7月[目標年次:令和10年代半ば(2030年代半ば)]

令和元年7月2日
交通政策審議会
第76回港湾分科会
資料1-1

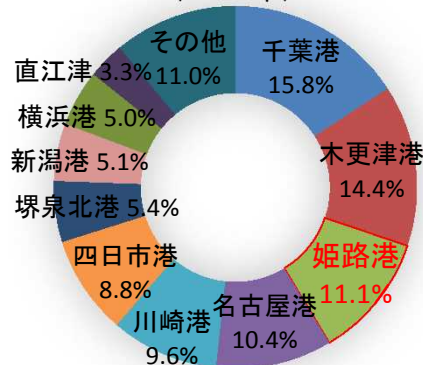
- 姫路港の背後圏は、製造品出荷額が近畿圏の14%を占める播磨臨海地域を構成する一大産業地域であり、姫路港は、製鉄工場や化学工場が立地し、我が国の基幹産業を支える生産・物流の拠点としての役割を担う。
- また、LNGを利用した火力発電所とガス工場が立地し、西日本1位のLNG輸入拠点であり、近畿圏で消費されるエネルギーの供給拠点としての役割を担う(電力、都市ガス:近畿圏消費量の約30%)。

【近畿圏内の製造品出荷額】
(2018年)(単位:百億円)

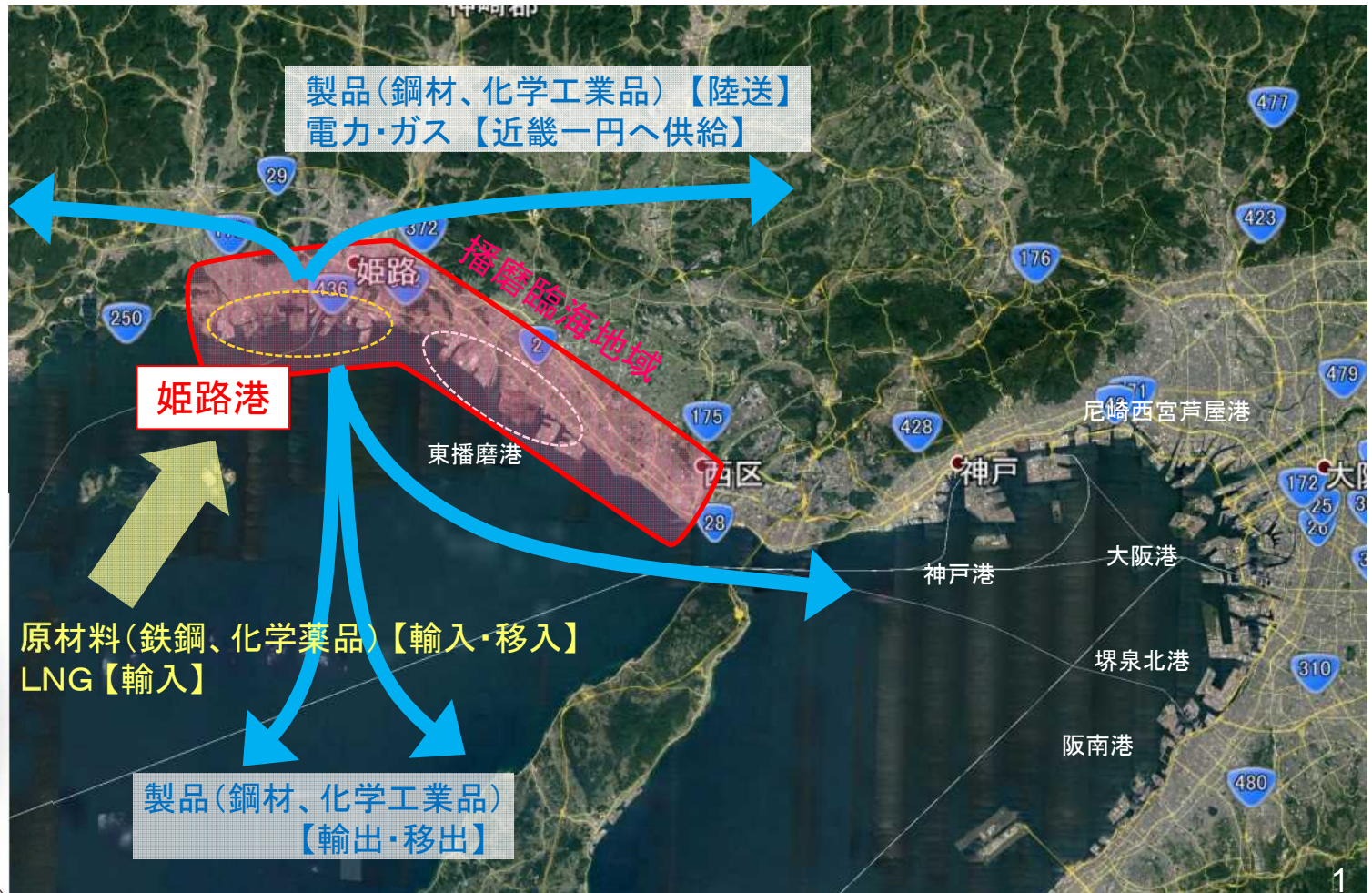


(姫路市より)

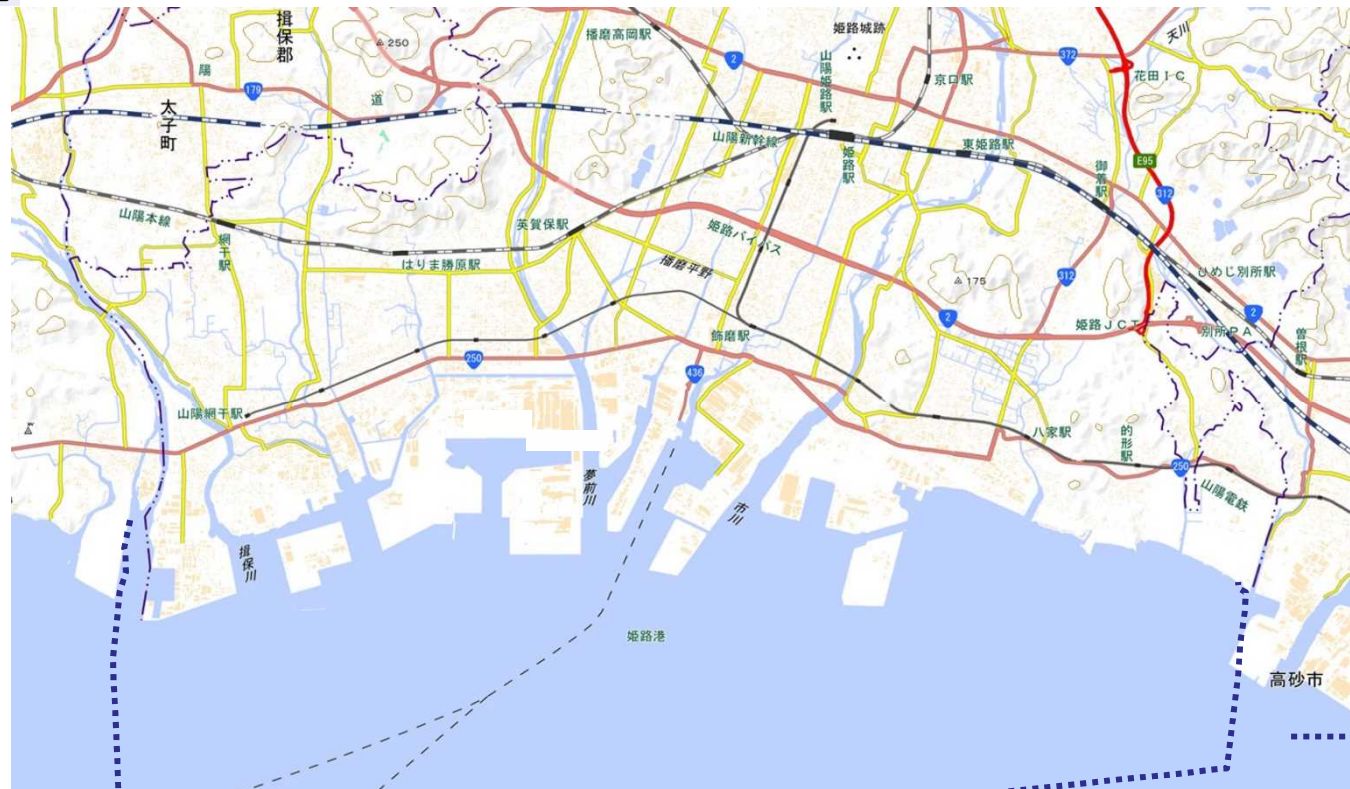
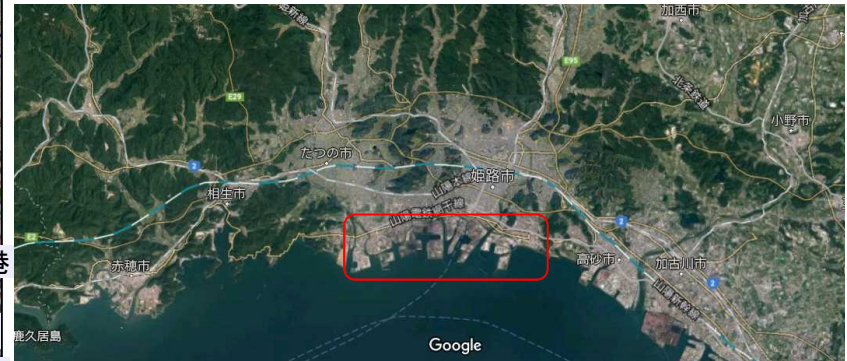
【LNG輸入量シェア】
(2017年)



(港湾統計より)



姫路港の背後ネットワーク



港湾区域

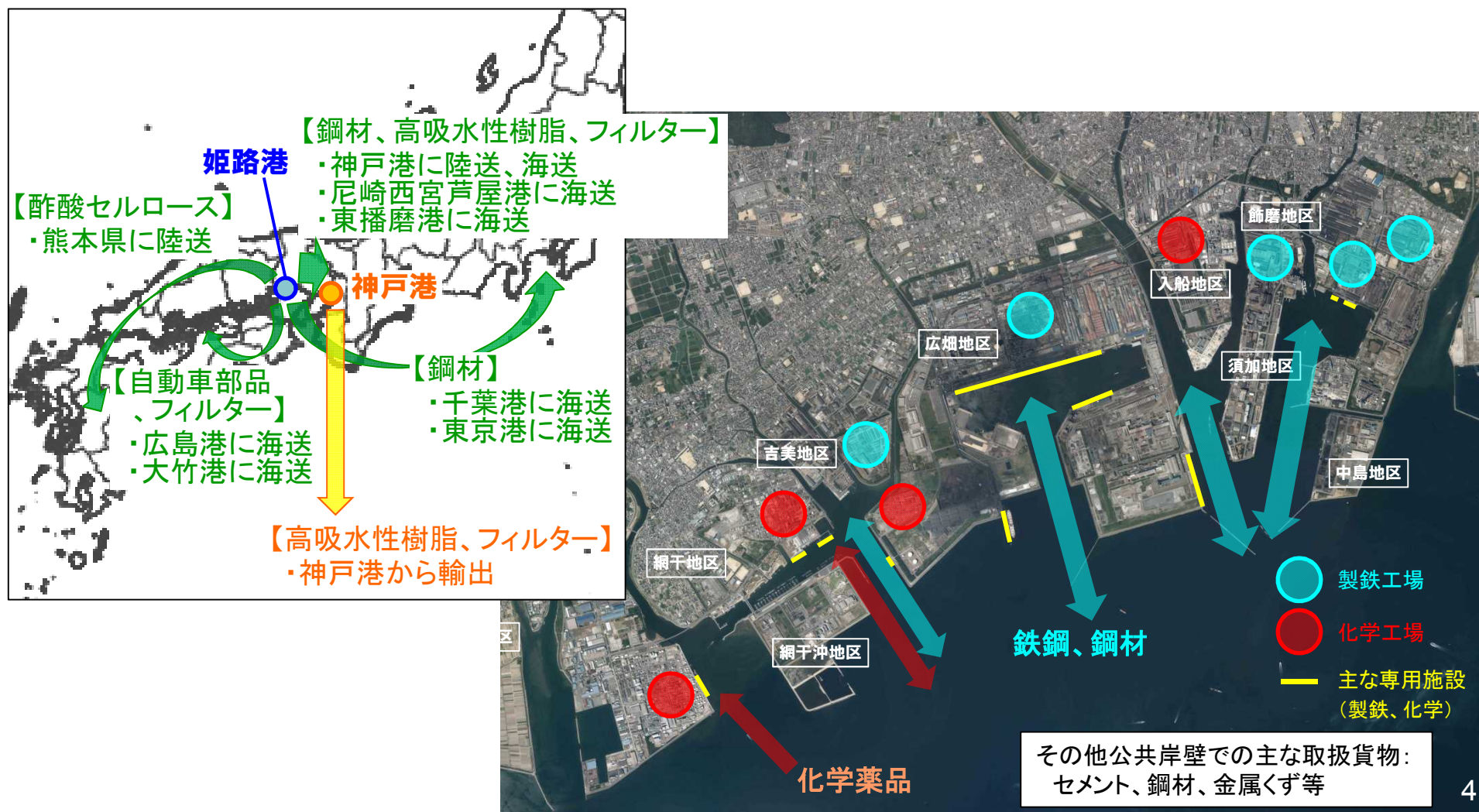
姫路港の企業立地等の状況

— : 既設公共岸壁・臨港道路



姫路港が担う役割(生産・物流の拠点)

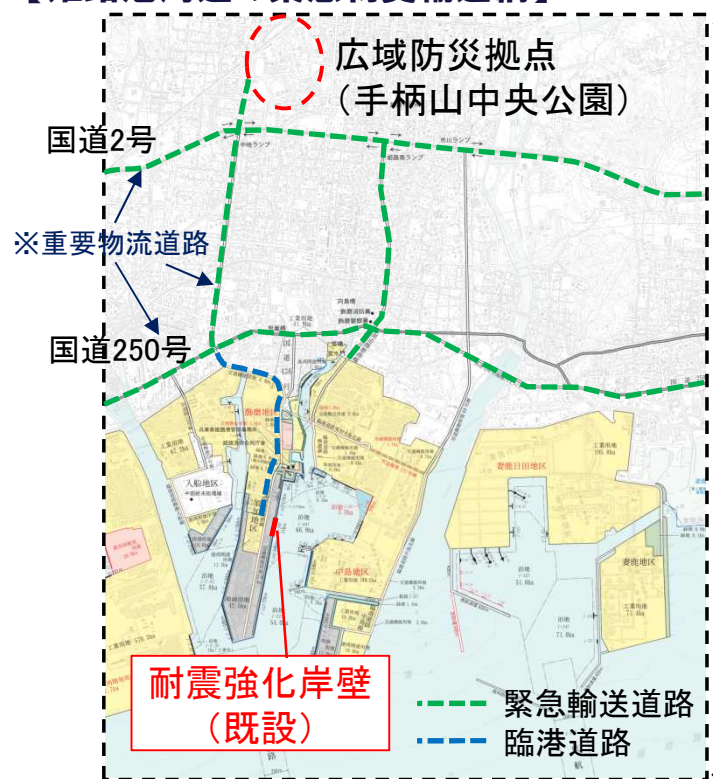
- 姫路港には我が国及び地域の基幹産業・地場産業を支える基礎素材産業が多く立地している。
 ※おむつの材料(高吸水性樹脂)の世界シェアトップ(25%)の化学企業や酢酸セルロースの世界シェアトップ(80%)の化学企業、国内の自動車製造企業への部品供給を支える鉄鋼企業等。
- 姫路港に立地する企業の多くが、工場に近接した専用施設を利用した海上輸送により原材料の調達と製品の出荷を行い、陸上輸送による製品の出荷や神戸港等への輸送も多い。



姫路港が担う役割(緊急物資輸送の拠点)

- 「兵庫県地域防災計画」において、赤穂港、家島港、姫路港、東播磨港、福良港、津名港、神戸港、尼崎西宮芦屋港、津居山港に耐震強化岸壁が必要とされている。
- 同計画において、姫路港での耐震強化岸壁は、災害時における姫路市・たつの市・太子町向けの緊急物資の海上輸送の拠点として1バースが必要とされており、当該バースは2006年に完成。

【姫路港周辺の緊急物資輸送網】

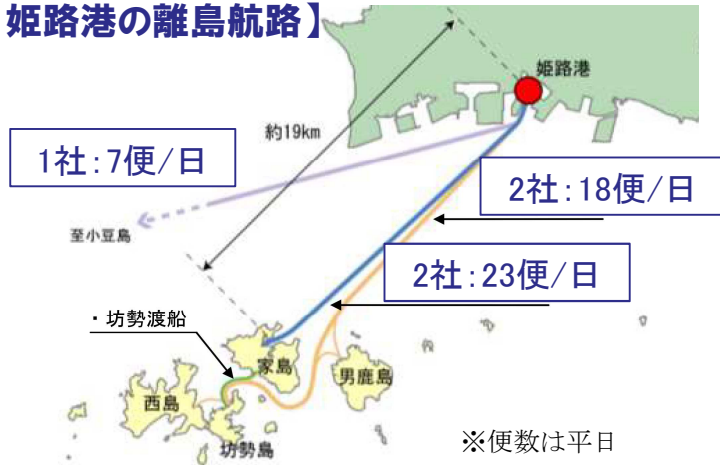


- 姫路港背後圏：姫路市、たつの市、太子町
※2市1町の人口/兵庫県の人口=64万人/548万人
- 発災後24時間～72時間で耐震強化岸壁の被災状況を調査し、必要に応じ応急復旧を行なう。
(姫路港BCP計画)

姫路港が担う役割(地域の海上交通拠点、にぎわい空間)

- 小豆島及び家島群島へのフェリー・小型旅客船が48便/日(平日)就航し、通勤通学の交通手段となっている。
- 「みなとオアシス姫路」(2013年登録)は、代表施設の姫路みなとミュージアム等で構成され、市民や観光客の交流拠点となっている。
- 兵庫県、姫路市及び地元経済界からなる「姫路港ポートセールス推進協議会」による船社へのポートセールス等により、年間2~3回程度で推移していた寄港回数が2019年の予定寄港回数が7回に増加。

【姫路港の離島航路】



【クルーズ船寄港回数の推移】

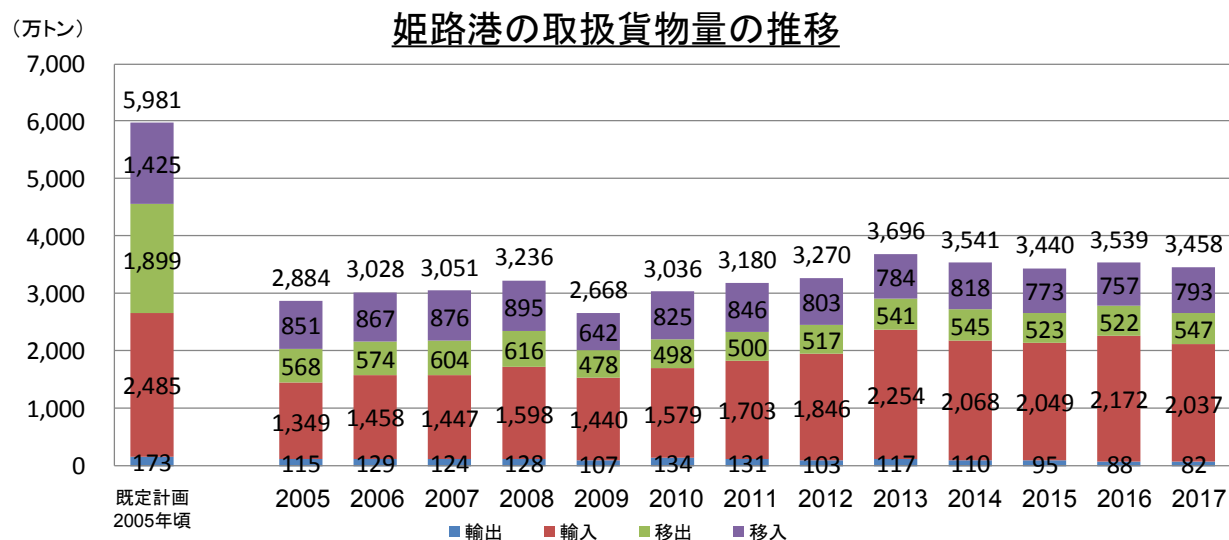


【みなとオアシス姫路の構成施設、活動状況】



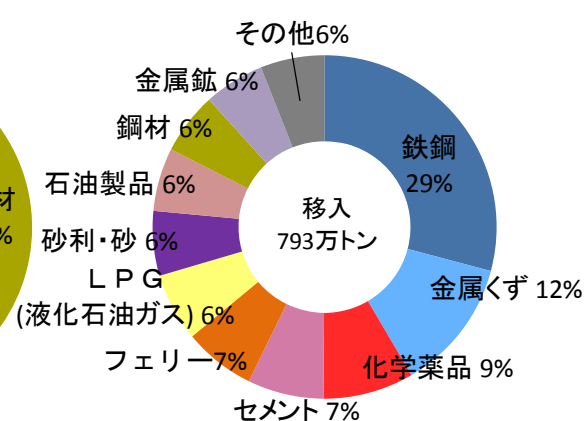
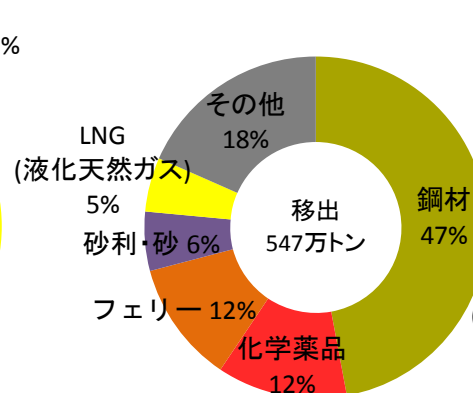
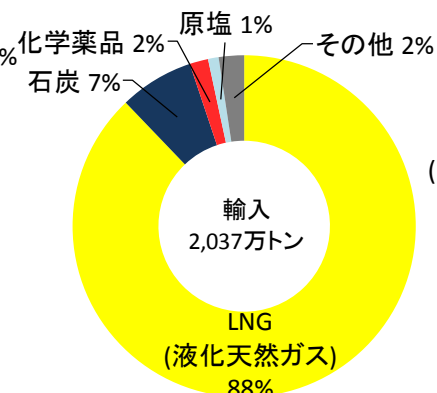
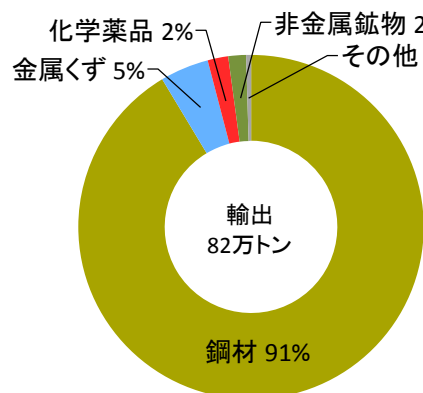
姫路港の貨物取扱状況

- 大宗貨物は、LNG(液化天然ガス)の輸入、鋼材の輸移出、鉄鋼と金属くずの移入。
- LNGは、豪州、インドネシア等から輸入し、火力発電とガス供給に利用。
- 鋼材と金属くずは、主に名古屋港、広島港等から移入し、臨海部の製鉄所で厚板・中板に加工。加工した製品は、中国、タイ等に輸出及び兵庫県内他港や広島港等に移出。



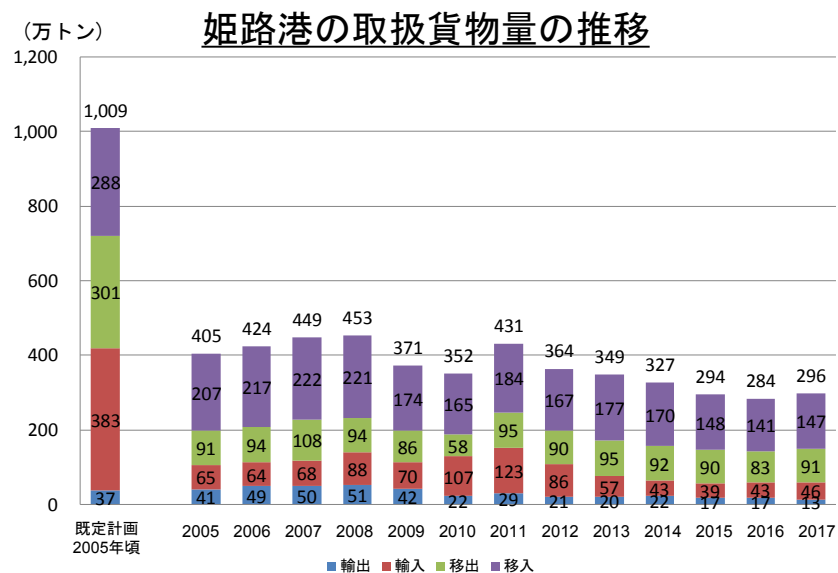
出典：兵庫県港湾統計年報

取扱貨物量の内訳 (2017年)

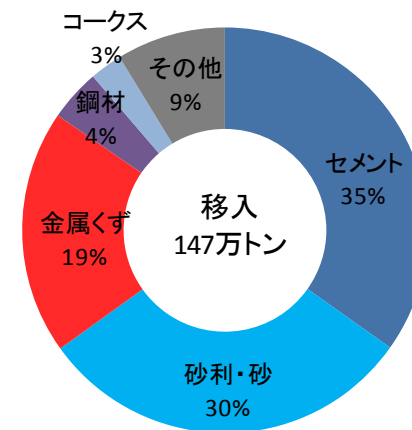
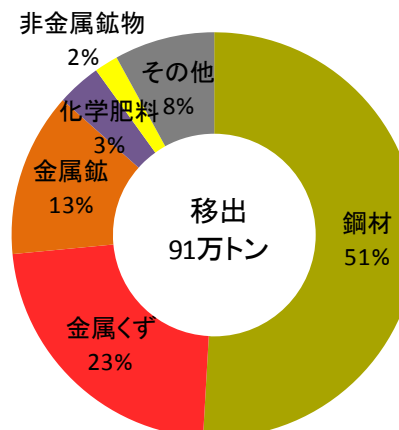
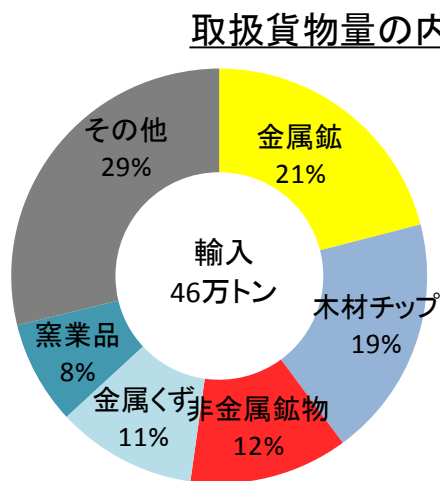
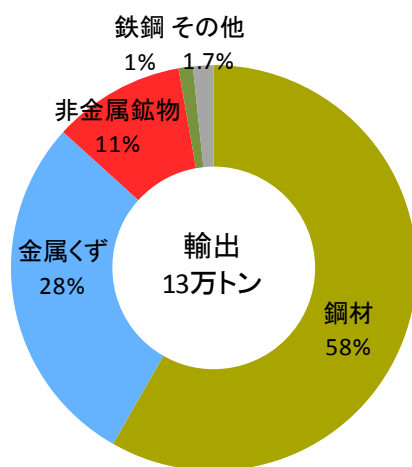


姫路港の貨物取扱状況（公共貨物）

- 大宗貨物は、鋼材の輸移出、金属鉱物の輸入、セメントの移入。
- 鋼材は、主に形鋼などに加工し韓国や台湾等に輸出、千葉県や神奈川県に移出。
- 金属鉱物は、マンガンを韓国から輸入し、姫路港内で鉄鋼精錬に使用。また、亜鉛鉱物を豪州等から輸入し、広島県へ移出して精錬に使用。
- セメントは、建設資材用として福岡県や大分県から移入。

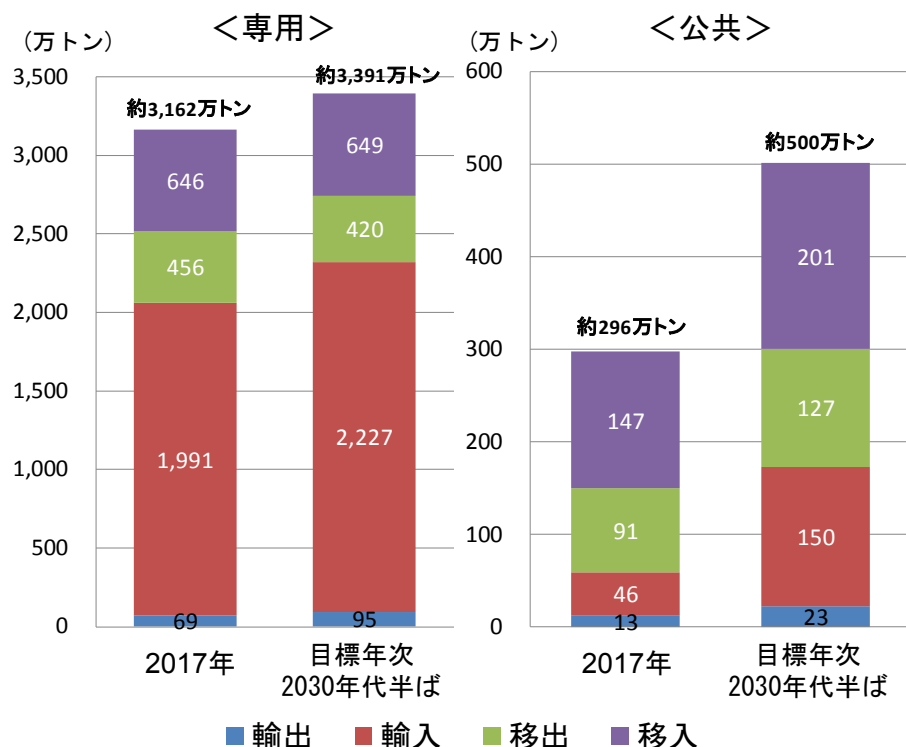


出典：兵庫県港湾統計年報



計画貨物量の設定

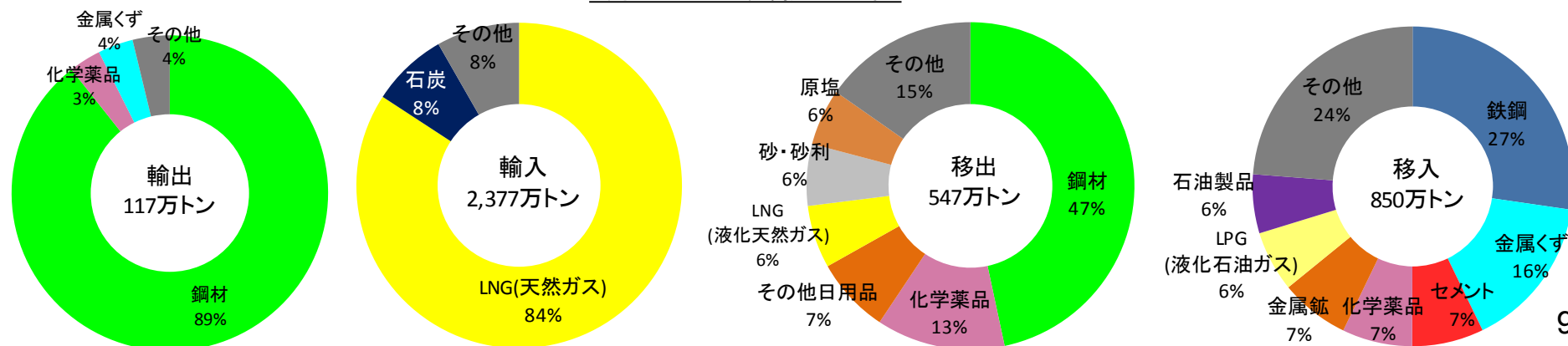
【増減の主な要因】



<専用>
LNG
【輸入】 (2017年)1,789万トン → (今回推計)2,001万トン
 ・臨海部における新規LNG発電所の稼働による燃料の取扱増加を見込む。

<公共>
非金属鉱物
【輸入】 (2017年)5.6万トン → (今回推計)43万トン
【移入】 (2017年)0.6万トン → (今回推計)29万トン
 ・新規企業の立地による原料(石膏)の取扱増加を見込む。
木材チップ
【輸入】 (2017年)8.6万トン → (今回推計)37.5万トン
 ・臨海部における新規バイオマス発電所の稼働による燃料(木材チップ、ヤシ殻)の取扱増加を見込む。
原塩
【輸入】 (2017年) 0トン → (今回推計)26.6万トン
【移出】 (2017年) 0トン → (今回推計)30.6万トン
 ・専用岸壁利用から公共岸壁利用への転換を見込む。

今回計画の貨物量内訳



姫路港の目指す姿

【港湾の中長期政策-PORT2030-】

2. 持続可能で新たな価値を創造する国内物流体系の構築

- ◆企業によるサプライチェーンマネジメントの高度化・効率化に対応するため、臨海部空間の利用再編・面的再開発

5. 新たな資源エネルギーの受入・供給等の拠点形成

- ◆基礎素材産業の競争力を強化するため、輸送インフラの更新・改良・強靱化を促進

3. 列島のクルーズアイランド化

- ◆外国人クルーズ旅行客に安全かつ快適な旅を提供するため、ターミナルビル等において無料無線LAN整備、案内の多言語化等にも対応し利便性を向上
- ◆外国人クルーズ旅行客が個別に日本特有の美しい自然や伝統・文化に触れられるようなオーダーメイドの観光ルートを提供する等きめ細やかなサービスを促進

4. ブランド価値を生む空間形成

- ◆地域の文化・歴史を活かしたみなとまちづくりやみなとオアシスの活性化
- ◆様々な観光資源を発掘し磨き上げ、魅力的なコンテンツ作りを促進

6. 港湾・物流活動のグリーン化

- ◆ブルーカーボン生態系(藻場等)の活用等による「CO₂吸収源対策」を促進

【今回計画での主な対応】

＜物流・産業＞

○産業を支える物流・生産拠点としての港づくり

- ・産業動向に対応した大型船の受入環境の整備
- ・背後の幹線道路網との円滑に接続するための臨港道路の整備
- ・産業空間の利便性向上のための臨海部用地の誘導・供給

＜防災＞

○安全な暮らし・産業を守る港づくり

- ・官民が連携した災害時の輸送ルート構築による産業空間の防災機能の強化

＜交流＞

○豊富な観光資源を活用し、交流促進を支える港づくり

- ・旅客船の円滑かつ安全な受入環境整備のための埠頭再編
- ・地域の特性に配慮した旅客施設及び交流施設の整備、背後地域や島々等の観光資源との連携

＜環境＞

○環境の改善・自然環境の創出に資する港づくり

- ・浚渫土砂等を有効活用した藻場の造成による良好な環境の創造

姫路港港湾計画(改訂案)の概要



主な計画内容(産業空間の確保、物流機能の強化)

- 計画段階評価中である播磨臨海地域道路と連携しつつ、臨港道路網干沖線及び臨港道路広畑線の拡幅を計画し、円滑な埠頭間移動を可能とすることで、製品の出荷や原料調達、神戸港等への貨物輸送の円滑化を図る。
- 基礎素材製品の円滑かつ安定的な輸送により、姫路港や他地域の産業の国際競争力の強化に貢献する。



主な計画内容(産業空間の防災機能強化)

- 姫路港には耐震強化岸壁が須加地区に1バースあり、災害時における背後圏及び家島諸島への緊急物資を扱う。
- あわせて、産業空間の防災機能強化のため、災害時における立地企業の復旧資機材等の搬入について、企業の耐震性能を有する専用岸壁を相互利用し、航路啓開等を港湾管理者が行う協力体制を構築する。



主な計画内容(旅客船受入環境の向上)

○ 飾磨、須加地区において、貨物、旅客の取扱機能の再編を行い、姫路の海の玄関口として、地域のブランド価値を向上させる美しく快適で安全な港湾空間を形成する。

— 既設岸壁 — 今回計画
 → 貨物動線 → 旅客動線

ポートセンタービル



離島との交通結節点として利便性、快適性が不足

- ・ポートセンタービルの老朽化
- ・駐車場、ロータリーが狭隘

貨物と旅客の動線が輻輳

旅客船ターミナル



クルーズ船と旅客船ターミナルが離れている

※クルーズ船寄港
 2017年: 3回
 2018年: 2回
 2019年: 7回(予定)

ポートセンタービルを撤去
 →撤去後は貨物倉庫を新設

旅客ターミナル機能の集約

にぎわい施設
 ※今後公募予定
 (土地利用計画)
 埠頭用地
 →交流厚生用地

貨物の集約

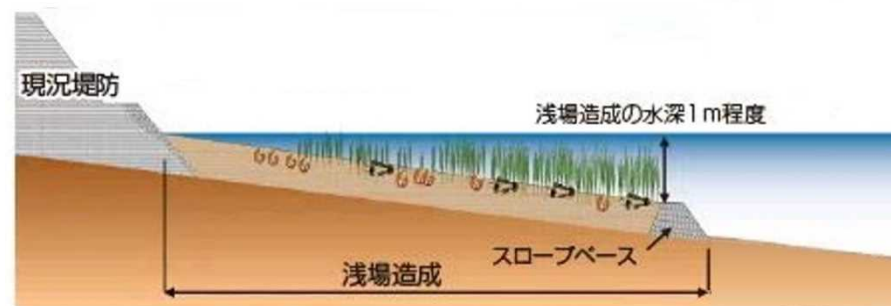
旅客の集約

(岸壁用途)
 貨物用岸壁
 →貨客併用岸壁

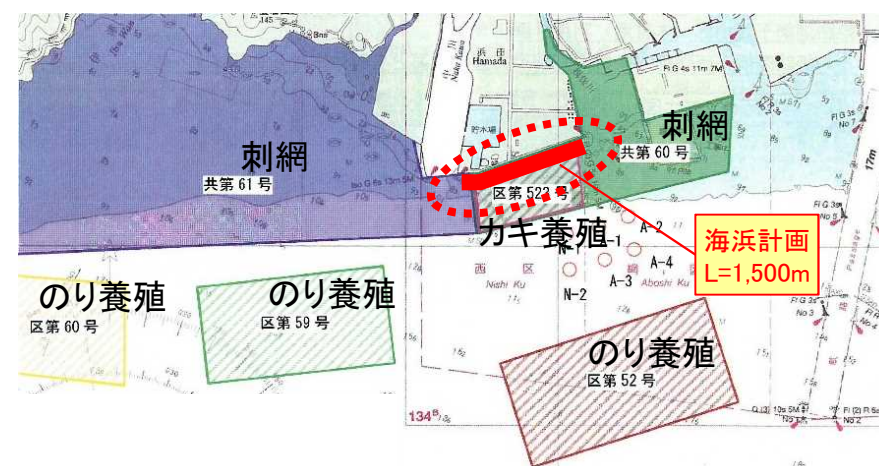
主な計画内容(良好な自然環境の保全)

- 姫港内浚渫により発生する土砂を有効活用し、護岸前面に浅場をつくり、藻場の形成を促すことで、海域環境の保全や自然環境の創出を図る。

浜田地区



【海浜計画の断面イメージ】

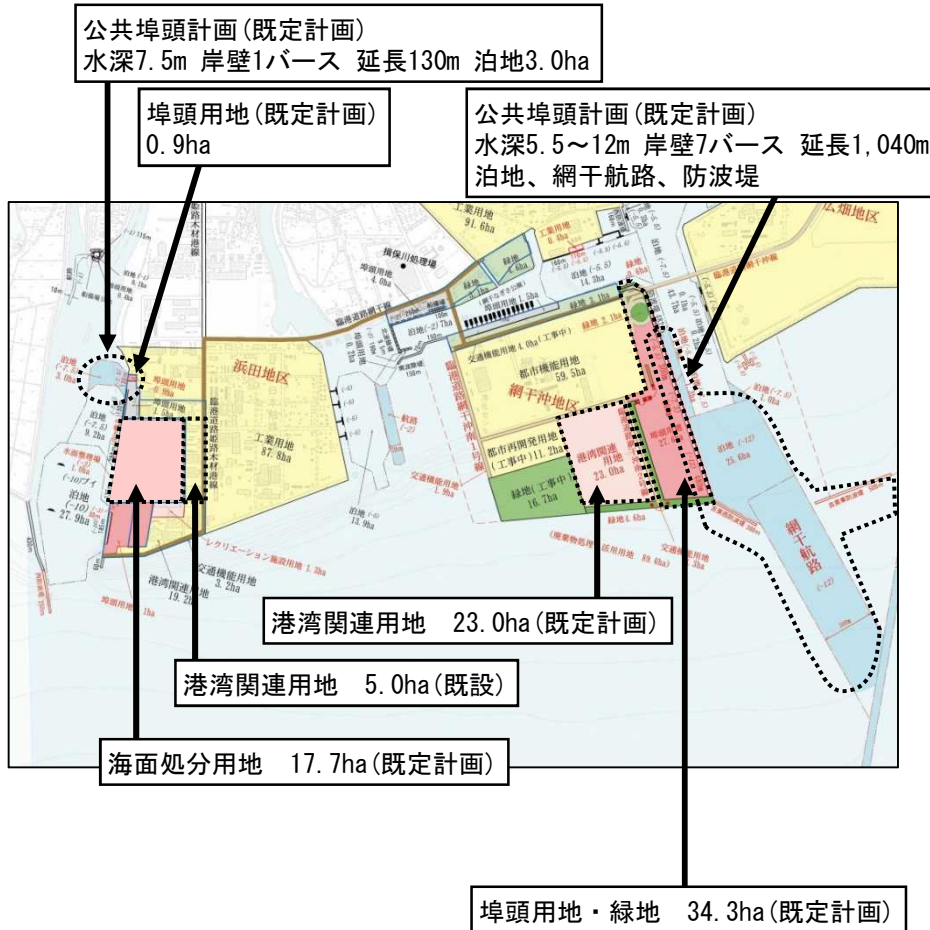


【浜田地区周辺の漁業活動】

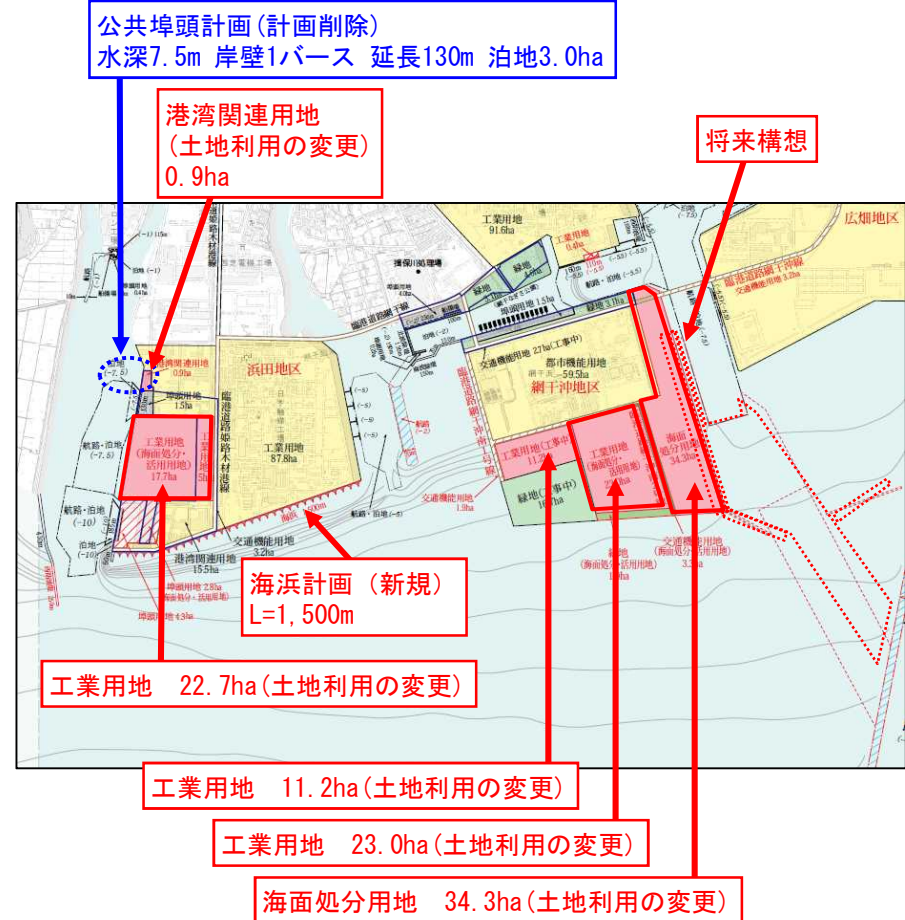
港湾計画の変更内容(浜田地区、網干沖地区、網干地区)

凡例	
新規・変更	— (Red line)
計画削除	— (Blue line)

【既定計画】



【今回計画】



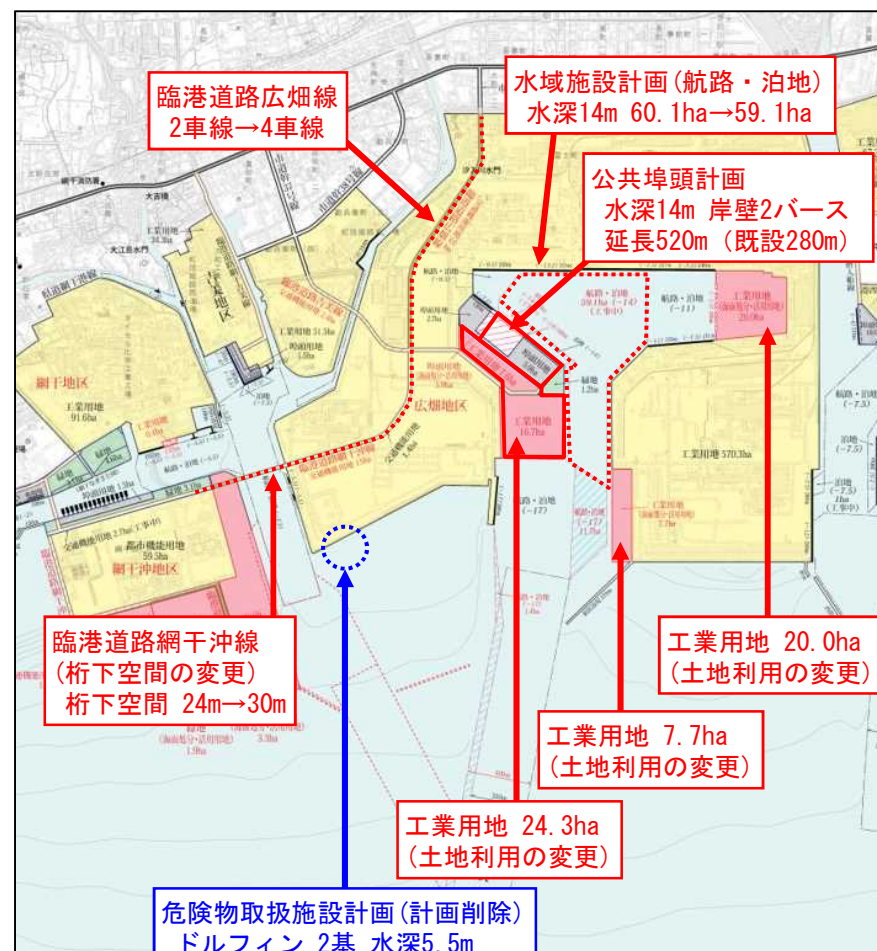
港湾計画の変更内容(吉美地区、広畑地区)

凡例	
新規・変更	——
計画削除	——

【既定計画】



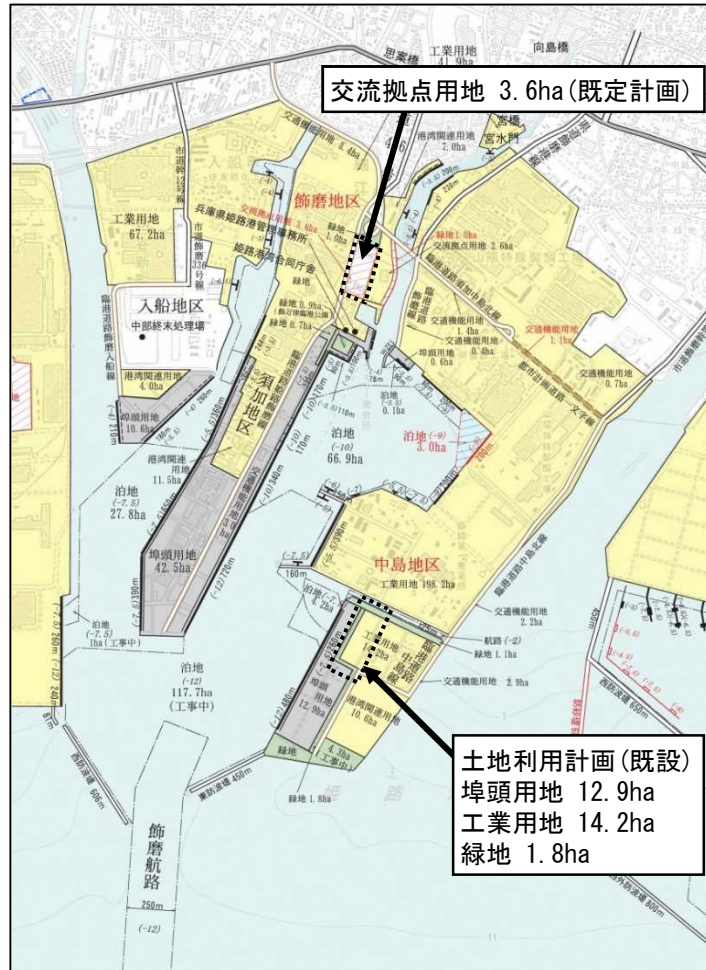
【今回計画】



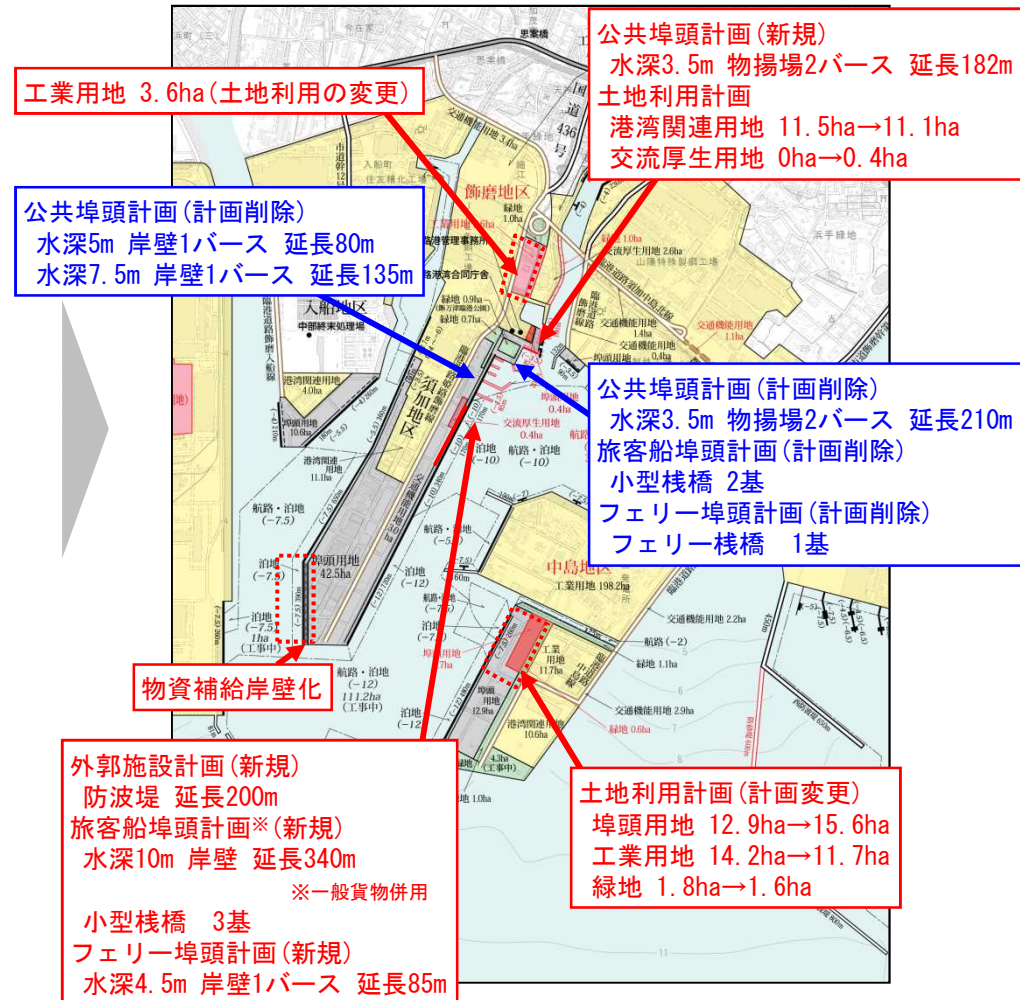
港湾計画の変更内容(飾磨地区、須加地区、中島地区)

凡例	
新規・変更	— (Red line)
計画削除	— (Blue line)

【既定計画】



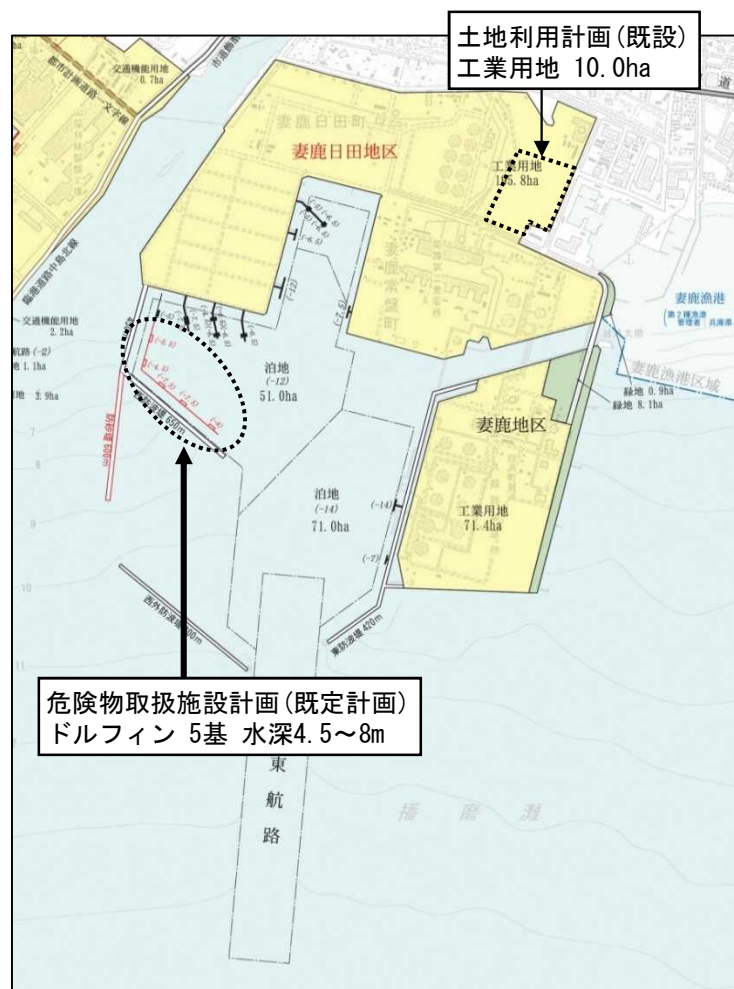
【今回計画】



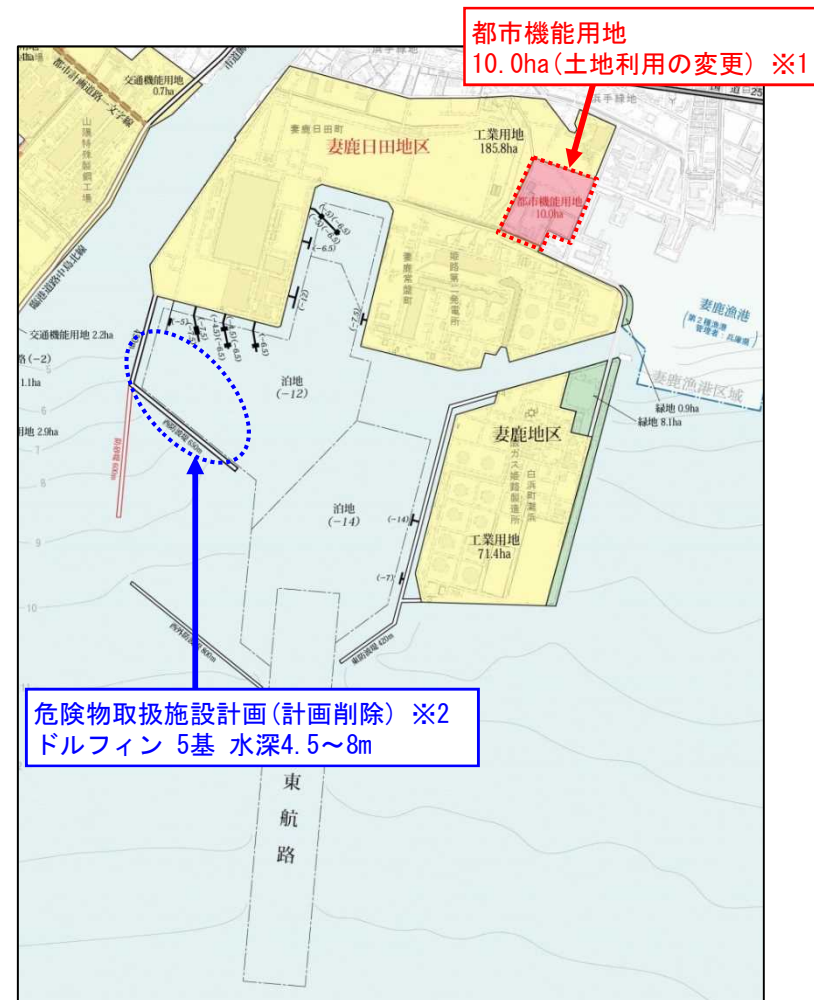
港湾計画の変更内容(妻鹿日田地区、妻鹿地区)

凡例	
新規・変更	— (Red line)
計画削除	— (Blue line)

【既定計画】



【今回計画】

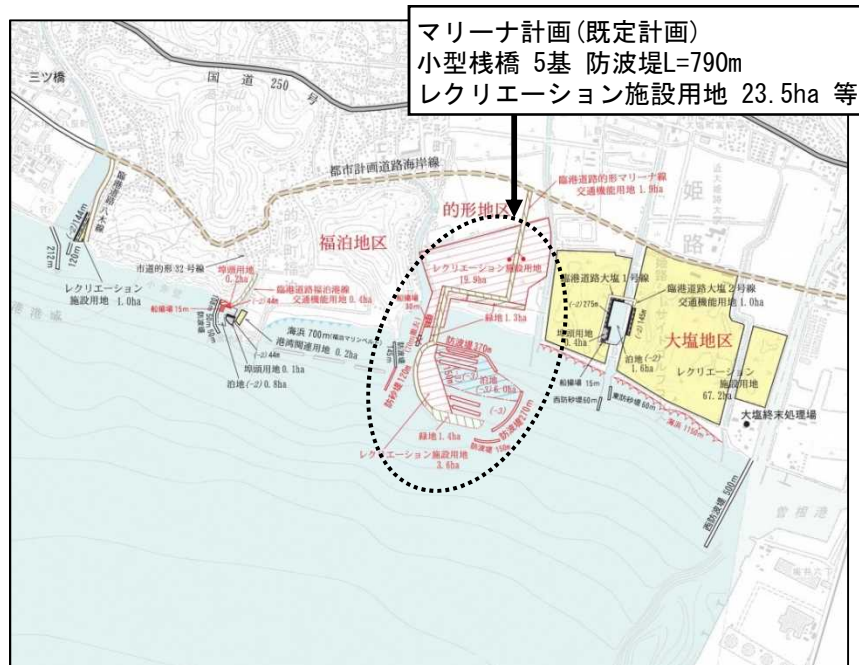


※1 妻鹿日田地区に姫路市中央卸売市場が移転予定であり、移転予定地の土地利用計画を変更する。

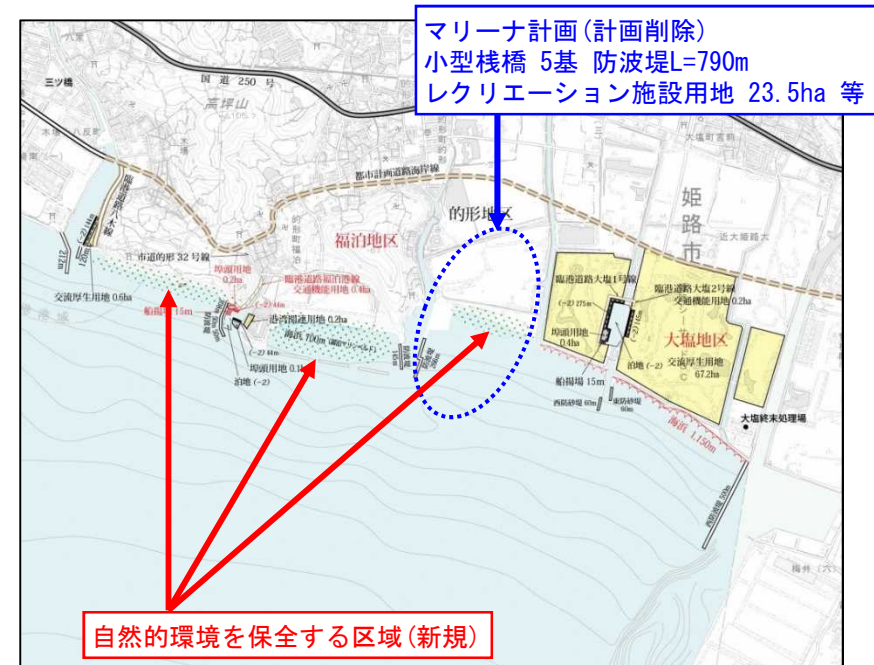
※2 企業の意向により、未整備の危険物取扱施設設計画を削除する。

凡例	
新規・変更	——
計画削除	——

【既定計画】



【今回計画】



※1 姫路港に残されている貴重な景勝、海浜を保全するため、「自然的環境を保全する区域」を位置づける。

※2 経済情勢の変化により事業化の目処がたたないことから、マリーナ計画を削除する。

- 防災・減災対策について
- LNGバンカリングについて
- 内航フィーダーについて
- クルーズ船誘致について